

2 小学校第5学年

(1) 国語

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの………
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの………
- 3 1と2の間にあるもの ……………

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」「H14」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 H14 ~ 平成14年度の小学校第3学年の基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 3 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題

正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(1) 国語

調査問題の構成とねらい

- ・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び[言語事項]に関する基礎的・基本的な知識や能力をみる問題とした。
- ・ 「聞き取り」、「物語」、「説明文」、「ことば」、「作文」の5部構成とし、基礎的・基本的な内容について、特定の分野や内容に偏ることのないように、広い範囲から出題した。

平均点 76.9点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内容・ねらい	主な領域・事項	大問別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較
一	聞き取り	1	大意の把握	文脈を踏まえて話の概要を聞き取ることができる。	話聞	77.2	99.5	95	
		2	あ 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		58.0	85	
		い 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞	86.9		85		
		3	ア 要点の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		71.6	80	
			概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		79.2	85	
		4	概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		53.2	80	
			概要の把握	文脈を踏まえて話の内容を聞き取ることができる。	話聞		92.3	90	
二	物語	1	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子を理解することができる。	読	85.1	77.3	80	
		2	内容把握	文脈を踏まえて心情を理解することができる。	読		72.8	80	
		3	内容把握	文脈を踏まえて心情を理解することができる。	読		81.2	80	H15
		4	内容把握	文脈を踏まえて場面の様子や心情を理解し、該当表現を指摘できる。	読		97.4	85	
					96.7	85			
三	説明文	1	内容把握	叙述の順序を正確に読み取ることができる。	読	82.8	75.5	75	H14
		2	内容把握	文脈を踏まえて指示語の表す内容をつかむことができる。	読		80.7	80	H15
		3	適語挿入(接続語)	文の意味や文章全体の意味内容を考えながら、適合する接続語を入れることができる。	読		86.5	80	H15
		4	適語抽出	文脈を踏まえて、当該表現を書きぬくことができる。	読		93.8	85	
			適語抽出	文脈を踏まえて、当該表現を書きぬくことができる。	読		96.1	85	
5	内容把握	文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえ、自分の考えを表現できる。	読	64.3	75	全国			
四	ことば	1	(1) 筆順	正しい筆順で書くことができる。	言語	70.8	67.5	75	H14
			(2) 筆順	正しい筆順で書くことができる。	言語		30.0	50	
		2	(1) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		86.7	85	
			(2) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		88.2	90	全国
			(3) 漢字の読み	小学校5年生(上本)までに学習した漢字を読むことができる。	言語		96.4	90	
		3	(1) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		77.7	75	
			(2) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		55.3	70	
			(3) 漢字の書き	小学校4年生までに学習した漢字を書くことができる。	言語		82.7	80	H14
		4	(1) 文の構成把握	主述の関係を理解し、指摘できる。	言語		58.2	70	H15
			(2) 文の構成把握	主述の関係を理解し、指摘できる。	言語		66.4	80	H15
		5	(1) 反対語の把握	反対語を正しくとらえることができる。	言語		54.4	70	全国
			(2) 反対語の把握	反対語を正しくとらえることができる。	言語		93.7	90	
		6	(1) ローマ字表現	簡単なローマ字の書きができる。	言語		35.3	60	H15
(2) ローマ字表現	簡単なローマ字の読みができる。		言語	82.2	80	H15			
7	辞書の活用	国語辞典の使い方を理解している。	言語	88.0	85				
五	作文	条件作文	伝える相手や目的を意識して文脈の通った文章を書くことができる。	書	78.4	78.4	75		

主な領域・事項は、話聞...「話すこと・聞くこと」、書...「書くこと」、読...「読むこと」、言...「言語事項」を示している。

一 正答率 (77.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
1	びゅんびゅんご まの作り方に	99.5	一つめに (0.2)
2	あ	58.0	あつ紙(5.2)ダンボール(4.2)無解答(6.6)
	い	86.9	ダンボール(1.6)あつ紙(1.4)無解答(1.6)
3	対角線	71.6	線(5.0)たこ糸(1.0)無解答(3.2)
4	右から	×	79.2 (2.2) 無解答(6.8)
	順に	×	53.2 (16.8) 無解答(7.6)
			92.3 ×(2.8) 無解答(2.2)

<考察>

話の概要や要点を正しく聞き取る力をみる問題である。

「聞く」力については、予想した正答率よりもやや低い結果となった。記述式である問2の「あ」と「い」とで正答率に差があるのは、びゅんびゅんごまの作り方について、大事な言葉をおさえながらイメージして聞く力が十分に身に付いておらず、びゅんびゅんごまを作るのに必要な物をつかむことはできても、びゅんびゅんごまを作るのに必要な物の形「正方形」まで、的確につかむことができなかつたためと考えられる。また、必要なことを正しく聞き取り、わかりやすくメモを取ることが十分にできていないため、記述式の問題では、無解答や内容に合わない答を書いている割合が高くなっていると考えられる。話し手がどのような目的や意図をもって話をしているのかを考えながら聞き、大事な言葉や内容の中心、要点は何かをつかむ能力を育成する必要がある。

そこで、指導に当たっては、話し手の意図や伝えたいことは何かを意識しながら、大事な言葉や要点を聞き取ることができるよう指導することが大切である。そのためには、大事な言葉を聞き取ることができるようにするための「メモの取り方」を身に付けさせなければならない。例えば、「何をメモするか」を教える指導として、メモを取らずに、集中して話を聞かせた後で、話の概要や要点について話し合う中で、何をメモすればよいかに気付かせるなどの指導が考えられる。

二 正答率 (85.1%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	草や木が一本も生えていなかったから	77.3		「ので」「から」を付けて答えていない(4.2) 山はだにじかにふりかかるのは、雨や雪だけ(3.4)
2	ウ	72.8		イ(12.4) エ(3.4) ア(2.8)
3	・小鳥がいなくなるとさびしくなる。 ・もっといっしょにいたい。	81.2	H15 81.0 類似	気持ちが表現できていない(1.8) 無解答(3.2)
4	エ	97.4		ウ(0.8) ア(0.6)
	ア	96.7		イ(0.8) エ(0.8)

<考察>

文脈を踏まえて、物語文の中で、登場人物の気持ちや場面の様子を的確に読み取る力をみる問題である。

問4の該当表現を指摘する問題は、かなり正答率が高く、登場人物がどのような気持ちでいるのかについて、大まかに想像することはできていると考えられる。しかし、問2の文脈を踏まえて登場人物の気持ちを想像する問題の正答率が低くなっている。これは、「わくわくして」という言葉に着目して読み取ることが、十分にできていないためと考えられる。問3の登場人物の心情を想像して書く問題は、昨年度とほぼ同程度の正答率である。誤答例をみると、気持ちを表現することができていないものや無解答が多い。昨年度も、本文をそのまま写して、登場人物の気持ちを自分の言葉で表現することができていない誤答が多かった。文脈に沿って人物の気持ちをとらえ、想像した考えを自分の言葉でまとめて書く力が十分に身に付いていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、「言葉」に着目して、主体的に心情や場面の様子を読み取らせることが大切である。そして、話合いの場面で、自分で考えたことを自分なりの言葉で整理して話す力を伸ばすとともに、「言葉」から広がる「想像することの楽しさ」を味わわせることが大切である。具体的に、次のような指導が考えられる。

情景などの表現に着目させるために、文章の必要な部分を詳しく読んだり、優れた表現を視写したりするなど、「言葉」との関連を意識できるようにする。

「言葉」を使った短文作りをしたり、副詞や助詞の使い方による意味の違いに気付かせたりして、「言葉」の意味を正しくとらえさせるようにする。

学習課題を明確にもたせ、ワークシートの記入やノートへの書き込みなどによる一人調べの時間の充実を図り、主体的な学習活動を展開する中で学ぶ楽しさを味わわせるようにする。

「この言葉から、～という気持ちが分かる」というように、「言葉」に着目した根拠のある発表の仕方を身に付けさせるとともに、友達の考えを聞き、多様な考え方にふれさせるようにする。

さらに、言語活動を組み込むよう配慮したり、主体的な読書活動に発展していくような指導の展開を工夫したりする必要がある。

三 正答率 (82.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	右から 5 3 4 2	75.5	H14 67.0 類似	4 5 3 2 (2.4) 5 4 3 2 (2.2)
2	やわらかい土 の中	80.7	H15 57.0 類似	小さな部屋をつくり (4.8) 自分が動けるだけ (4.0)
3	イ	86.5	H15 65.4 類似	エ (3.0) ウ (1.6)
4	(1) 水量がほうふ	93.8		水量ほうふな (0.6) いつもきれい (0.6)
	(2) コケ	96.1		こけ (0.6) 無解答 (0.8)
5	ホタルの生き られるかんき ょうをとりも どすことが必 要である。	64.3	全国 79.5 類似	「かんきょう」「ホタル」のことは使 っていない (7.0) 自分のことばで述べていない (3.8)

<考察>

説明的な文章の内容について、的確に読み取る力をみるとともに、文章の構成に関する理解の状況をみる問題である。

問4の、文脈を踏まえて大事な言葉を書き抜く問題では正答率が高くなっている。また、問2の指示語の内容を的確にとらえる問題や問3の適切な接続語を入れる問題でも、昨年度に比べて正答率が高くなっている。これは、素材文が比較的読み取りやすいものであったことや、答えとなる接続語「そして」が、日常よく使うものであったことによると考えられる。しかし、指示語に関する問では、指示語の後に出てくる言葉を答えている誤答例がある。指示語の役割を正しく知らせ、指示語の示す内容を正しくとらえることができる力を養う必要がある。問1の叙述の順序を正確に読み取る問題では、第3学年時の問題に比べて正答率が高くなっている。これは、学習の積み重ねによる成果であると考えられる。問5の文章の内容を的確におさえながら要旨をとらえ、自分の考えを表現する問題では、全国に比べて正答率が低く、「かんきょう」「ホタル」の言葉を使っていないという誤答や、自分の言葉で述べていないという誤答がある。文章の内容を踏まえて、自分の言葉で表現する力が十分に身に付いていないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、説明的な文章の基本的な論の構成、接続語や指示語、文末表現などの説明的な文章の特徴をとらえさせることを大切にすることが必要である。具体的に、次のような指導が考えられる。

題名や冒頭段落部分から説明内容に対する関心を深めさせる。

段落の要点、段落相互の関係、小見出しの付け方、要旨の把握など説明的な文章の学習方法を身に付けさせて、読解の能力を育てる。

できるだけ簡潔に要旨をまとめたり、筆者の考えや意見に対する自分の考えをまとめたりする学習を通して、自分の考えを自分の言葉で表現する力を育てる。

さらに、読書指導において、説明的な文章に親しませるよう配慮する必要がある。

四 正答率 (70.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	(1) 八	67.5	H14 87.0 同一	九(17.0)十(2.0)
	(2) 四	30.0		九(13.8)六(8.4)
2	(1) ころご	86.7		しめ(0.8)ころごす(0.6)
	(2) もくじ	88.2	全国 92.9 同一	目を「もく」と読んでいない(1.6) 無解答(5.4)
	(3) よこぶえ	96.4		横を「よこ」と読んでいない(1.2)
3	(1) 整える	77.7		送りがなの間違い(2.0)
	(2) 包帯	55.3		句帯など「包」の間違い(2.8) 包体(2.2)
	(3) 新聞	82.7	H14 57.0 同一	新聞など「聞」の間違い(3.0)
4	(1) イ	58.2	H15 64.2 類似	オ(11.0)ウ(6.4)
	(2) カ	66.4	H15 79.3 類似	オ(12.4)エ(3.6)
5	(1) エ	54.4	全国 88.7 類似	イ(19.4)
	(2) ウ	93.7		ア(1.8)
6	(1) ringo	35.3	H15 54.0 類似	大文字と小文字がまざっている(3.6) 無解答(16.2)
	(2) つくえ	82.2	H15 69.0 類似	無解答(9.2)
7	右から	88.0		と が逆(5.2)

<考察>

言語事項の学習内容について、定着状況を見る問題である。

漢字の読みの正答率は比較的高い。また、問3の漢字の書きの③については、第3学年時よりも高くなっており、漢字の書きの練習の積み重ねによる成果であると言える。しかし、言語事項については、他の大問に比べて正答率が低くなっている。問1の筆順の問題の①については、第3学年時よりも低くなっており、筆順の定着は十分ではないと言える。問2の漢字の読みの②については、全国に比べてやや低い。音読みと訓読みを理解させ、正しく読むという意識を高める必要がある。問4の主語と述語の関係をとらえる問題では、主語・述語ともに、昨年度に比べて正答率が低くなっている。述語に比べて主語をとらえる問題の正答率が低く、主語と述語との関係を的確にとらえる力が十分に身に付いていないと言える。問5では、「前進」の反対語の「後退」をとらえる問題の正答率が全国に比べてかなり低く、漢字の意味を考えて熟語の意味をとらえる力が十分に身に付いていないと言える。問5のローマ字の読み書きの問題についても、昨年度に比べて正答率が低くなっており、特にローマ字の書きの正答率が低い。簡単なローマ字の読み書きの力が十分に身に付いていないと言える。

そこで、指導に当たっては、次のような工夫が考えられる。

漢字については、新出漢字の指導の際に空書きをさせたり、漢字の意味を押さえたりする。また、繰り返し学習においては、読み書きの練習だけでなく、筆順の問題も取り入れる。さらに、書写の時間の充実を図る。

熟語の意味を漢字の意味から類推させたり、同義語や反対語を考えさせたりするような、楽しく言葉を学習する場を設け、言葉への関心を高め、語彙力を伸ばす必要がある。

主語と述語の関係については、読みの学習の中で意識させる時間を確保したり、問題プリントを作成して復習させたりして、その定着を図る。

ローマ字については、諸学習活動でローマ字にふれる機会を利用して、正しく読ませたり書かせたりして、ローマ字に親しませる。

五 正答率 (78.4%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)
五	省略	78.4	3つの条件が満たされていない(9.0) 字数の過不足がある(5.4)

<考察>

与えられた条件をもとに、伝える相手や目的を意識して文字言語で表現する力をみる問題である。

誤答例を見ると、3つの条件が満たされていないものが多い。書く必要のある事柄を整理して書く力が十分に身に付いてないと考えられる。

そこで、指導に当たっては、相手意識や目的意識を明確にし、多様な文章を書く機会を与えることが必要である。そのためには、書きたいことや伝えたいことは何かを明確にして書くことを具体的に指導するとともに、簡潔にわかりやすくまとめるという学習経験の場を増やすことが必要となる。具体的に、次のような指導が考えられる。

短作文指導において、教師から共通の題材を与え、書くための視点を明確にもたせて書かせるような機会をもち、書くことへの関心を高めるようにする。

相手に自分の気持ちや考えを述べている文例を紹介したり、お互いの表現の仕方について話し合ったりして、表現の仕方を学ぶ場をもち、表現することの楽しさを感じ取らせる。

正しい表記の仕方をまとめたものを掲示し、常に意識させるような環境づくりをするとともに、誤字・脱字をなおしたり、句読点を正しく打ったりするような学習活動を設定し、児童自身で推敲できる力を身に付けさせる。